

ウエルカム学園町 「学園」が紡いだ世代を超えた継承 宮本明和さん、馨さん、梨生ちゃん一家

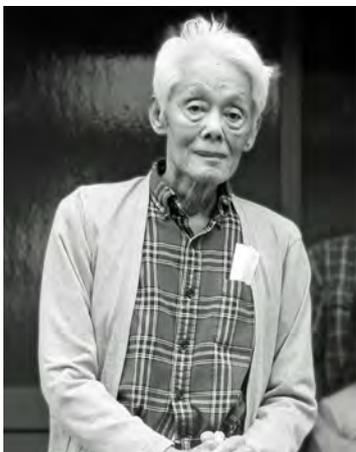
今春、神奈川県葉山町から宮本明和さん(49)、馨さん(47)夫妻と長女の梨生ちゃん(7歳)の家族が学園町1丁目に引っ越してきました。梨生ちゃんが自由学園初等部に入ったのがきっかけです。宮本さん一家の新居は、自由学園OBの田中久雄さん(90)が長年住んでいた所。高齢のため田中さんが施設に入所したため、家をリフォームして宮本さんに貸したのですが、そのリフォームを担当したのが、やはり自由学園出身の建築家・藤川曜子さんでした。近年、日本各地の住宅街で「空き家」が問題になっていますが、これは「学園町らしさの継承」の一つの形であるとも言えます。自由学園」を核に世代を超えた交流が実現したのです。

司法書士の資格を持つ明和さんは東京都内の法律事務所で会社関係の仕事に従事し、馨さんも都内の別の法律事務所勤務しています。今年の3月までは、梨生ちゃんが葉山の地元の保育



園に待機児童問題のため入園できず、都内の馨さんの実家近くの幼稚園に通っていたため、平日は馨さんの実家で過ごし、週末に葉山に帰る生活を続けていました。

そして、梨生ちゃんの自由学園入学を機に学園町にやってきました。「一年半ほど前偶然購入した『木育』関係の本に自由学園の記事が出ていました。男子部の生徒が、自分たちが使う椅子を自分たちで作るという内容でした。記事を読んでこういう学校で学んだらおもしろいだろうと興味がわき、学校



から資料を取り寄せました。学校説明会に出席し、子どもに適しているのではないかと思いました」と明和さん。勉強も大切だが、それ以外に人間として生きていくための知恵を身につけることができると思ったということです。「僕自身は普通の学びをしてきました。もっと生活のためのいろいろな知恵や知識を習得できるような環境があるといいなと思っていたので、そこで自由学園がヒットしました」。

しかし、決断にいたるまでには悩みを悩んだということです。「公立の学校を選ぶという選択肢もありました。最後は、葉山に比較的近い鎌倉の私立学校との二者択一になりました。その学校は周囲の環境もとてもよかったです」。

でも、最後の決め手となったのは自由学園には他の学校にはない特色と理念があったからで、「食育」も魅力的でした。

決めたのは入学まであと4か月の昨年11月。そうと決めたからには、さっそく家を見つけてなくてはなりません。葉山から毎日通学するのは不可能です。昨年12月のある日、学園町で物件探しをスタート。その時、田中さんの家に遭遇したのです。まだリフォームの真っ最中で正式には募集していませんでしたが、入居をお願いして帰りました。リフォームの工事が今年3月に終わり、無事入居ができました。自由に使えていいですよ、と田中さんから言われており、DIY好きの明和さんが工夫して部屋づくりをしています。

馨さんは「駅に近いし、駅周辺には商店街がありますが、ここに来ると緑

が多いのに驚かされます。新興住宅街とは異なり、地に足がついた成熟した町です。古くからの良さを知っている人たちが、保ってきたと感じます」と話しています。そして、梨生ちゃんからは「学校はとっても楽しいよ〜!」と元気な声が返ってきました。

さて、田中さんの近況などについても触れておきましょう。田中さんは現在90歳。田中さんのお母様とその姉妹も皆自由学園出身です。田中さんがここに住み始めたのは1963(昭和38)年。庭には、今でもお札(日本銀行券)の原料として使われるミツマタの木が植えられています。ミツマタとの出会いは、1990年、大蔵省印刷局(現独立行政法人国立印刷局)の局長から「お札の原料となるミツマタが日本ではほとんど栽培されなくなった。なんとかならないだろうか」と当時、政府刊行物専門書店「かんぼう」の代表だった田中さんに相談があったのがきっかけ。田中さんはネパールの山間地でミツマタの栽培に乗り出し、事業化に成功しました。

田中さんは、おとしし11月末に脳梗塞を起こし、昨年5月から大泉学園の有料老人施設に入居しています。奥さんはその前から同じ施設に入っており、当初はこの家の一階を共働学舎のクッキー製造所にする計画が進んでいました。しかし、途中で計画が中止になり、貸家として利用してもらうために藤川さんにリフォームを依頼しました。ちなみに、田中さんの家は遠藤楽の設計によるものでした。そして、藤川さんは遠藤楽のお弟子さんです。

花だより⑳

クリスマス、お正月用
早めの予約を

立川まり



食欲の秋、読書の秋、芸術の秋・・・秋は多彩な季節です。花も、秋ならではの色合いのものが増えてきて楽しませてくれます。

実際の紅葉はもっと寒くなってきましたが、市場では赤や黄の花(菊、ケイトウ etc.) イネ科の植物(パンパスグラス、ススキ etc.)、実もの(鈴バラ、唐辛子 etc.) などが見られるようになりました。ネイティブフラワー(オーストラリアなどの花、プロテア、ピンクッション etc.) も少しずつ増え始め10月はたくさん見られます。

また店先には球根が並び始めました。人気のあるものなどは売り切れてしまうので、気に入った花の球根は早めに購入を。植えつけはもう少し涼しくなってから、紅葉が始まってからになります。

そして秋のものが出始める頃、お花屋さんではクリスマスとお正月の準備が始まっています。本格的にクリスマス針葉樹たちが出てくるのは11月に入ってからですが、資材の準備、販売の準備は夏ころから少しずつはじめ、10月には予約販売が始まります。(もう始まっているところも)

フロアラルライフでも10月に入ると予約販売を開始します。

針葉樹、特にオレゴンモミなどは期間限定で入荷されるため予約数と見込みで準備していくこととなります。

またお正月の輪飾りも土台のしめ縄やリースも数が限られてきます。人気の色リースなどは市場でも見かけた時に仕入れておかないとすぐに売り切れてしまったりします。

こんな実情がありますので、クリスマスや、お正月のもの皆様も早めのご予約・ご準備をお勧めします。

ちなみに最近ではナチュラル志向で、シンプルなデザインやスワッグタイプ(花束を逆さに吊るすイメージ)が人気です。(フロアラルライフ) 立川まりさ 042-423-8646

落合川で課外学習を楽しむ
第五小学校副校長

松下寛壮夫

暑かった夏から一転、すっかり秋らしくなってきました。学期末は気温が高くなり、休み時間にも校庭に出られないことが多かったのですが、9月になってから過ごしやすいい日が続ぎ、多くの児童が校庭に出て過ごしています。

9月6日(火)に2年生の校外学習に付き添いに行っていました。毎年2年生は落合川で、生活科の学習の一環として川遊びやゴムボート体験を行っています。

ゴムボート体験は、流れが緩やかで、子供の足が十分に届くところで行われます。ゴールについては、もう一回川下りをしたいときには、自分たちでボートを引っ張ったり、押したりしながらスタート地点まで戻さなければなりません。たくさん遊ぶためには、チームワークが大切です。

また、子供たちが石で流れがせき止められていた所に集まっていたところ、東久留米川クラブの荒井和男さんが子供たちに「この石を動かすと川の水がきれいになるんだよ」とのアドバイスをしてくださいました。その後、子供たちは一生懸命に石や、石に引っかかった草を動かす、川の流れが淀みなく流れるようになりまし

生き物が住んでいる場所であることを荒井さんから教わりました。このように子供たちはただ、川遊びをするだけではなく、多くのことを学んで学校に戻ってきました。

川遊び体験ができる場所が学区域にあることは東京都内でも珍しいことで、児童にとってもいい経験となったと思います。

10月1日(土)の体育学習発表会に向けて、練習が始まっています。また暑さが戻ることも十分に考えられます。児童の安全には十分気を付けていきます。引き続きご協力よろしくお願ひします。



自由学園しのの茶寮の創設10周年を記念して、1階のしののめ力

フェで和菓子「しののめ棒」を販売しています。しののめ茶寮は、2011年にオープン、今年が創設11周年になりますが、10周年をめぐりに何か記念になるものを作ろうと企画していたのが、今年に入ってようやく実現しました。

自由学園のシンボルの存在である鶏「東天紅」の焼き印を浅草まで行って作ってもらったのが、そのスタートでした。「この焼き印を使って10周年の食べものを作りたいという思いがありました」と責任者の木下順子さん。ところがクッキーをはじめ、いろいろと試行錯誤しましたが、焼き印がうまく押せず、満足するものがなかなかできませんでした。

そんな時、スタッフの一人が「黒棒」という和菓子を作ってもってきました。仙台の友の会に所属していた時、和菓子の勉強をしていた学んだとか。黒棒とは、もともと九州地方を中心とした焼き菓子です。「これはいけるかも」と東天紅の焼き印を押すと見事に図柄が浮かび上がりました。中身のあんこを小麦粉とハチミツ、黒砂糖、バターで包んだ細長い小さな和菓子。夏休み前から2個で350円で販売を開始し、名前も当初の黒棒から「しののめ棒」としました。ぜひ一度お試しください。



篠宮篤樹、佐代子夫妻の「ミニばら盆栽学園」がオープン 素敵なバラとカフェでのひととき

みなさん、自由学園からひばりヶ丘駅に向かう学園通りに「ミニばら盆栽学園ひばりヶ丘店」がオープンしたのを存じでしょうか。学園町1丁目にはひばりヶ丘店で扱うばらを育て管理する「ミニばら盆栽学園」もスタート。店では手のひらサイズのミニばら盆栽を各種取り揃えているのはじめ、名物の焼き団子やあんみつ、アイスクリームを用意したカフェ営業もやっています。盆栽の鑑賞の傍らカフェでくつろぎのひとときを過ごしてみませんか

ミニばら盆栽学園がオープンしたのは今年5月13日。オーナー(園主)の篠宮篤樹さん(68)と妻の佐代子さんの二人で切り盛りしています。もともと「ひばりヶ丘店」は、篠宮さんが2007年7月に開いた居酒屋「地頭山」をリニューアルしたものです。地頭山は近隣の住民から親しまれていた繁盛店でしたが、2年前の4月、新型コロナウイルスの感染拡大で東京都から休業要請が出され、2か月間の休業を余儀なくされました。「その2か月間、すぐ上の兄が経営している篠宮バラ園(南沢)に手伝



いに行きました。扱っているバラは新苗と大苗の鉢植えのバラが主流でしたが、ミニばら盆栽も育てていました。ミニばらの中でももつとも小さな系統のマイクロミニばらを見た時、これはかわいくて素晴らしいと感動しました」と

篠宮さん

育て方の基礎を教えてもらい、その後は自分で試行錯誤しながらミニばら盆栽の栽培にのめり込んでいきました。挿し木から育てるのですが、盆栽としての商品にするまでに2年ほどかかるとのこと。篠宮さんは、地頭山を開店した時、「20年間は営業をしたい」と決めていました。しかし、今年に入ってもコロナ収束の見通しは立たず、飲食業界をめぐる社会情勢も変化してきていることから、ミニばら盆栽の店を本格的に立ち上げることを決心しました。居酒屋から180度の大転換ですが、「長兄も造園業に携わっているなど植物を育てる環境が身近にあったので転身もスムーズにいきました」。それでも地頭山ファンからは閉店を惜しむ声は多く、佐代子さんと二人で「ここしかない店づくり」をしてきただけに「もう少しやりたかったという気持ちも本音ですが、その分ミニばらの魅力を皆さんに伝えたい」と抱負を語っています。

普通、バラという庭に植えたり、フェンスにつるでからませるというイメージですが、篠宮さんは「最近は庭付きの戸建ての家が少なくなり、マンションに住む人が多くなりました。ミニばら盆栽は手のひらサイズの大きさで、家の中の日の当たる窓越しで育てられます。四季咲き性の品種なので春から秋まで花を楽しむことがで

きます。また、適度の水やりと定期的な肥料を与えるなど植物の基本的な育て方で育てられます。一般的にバラには寿命が無いため何年も咲かせることができるのも魅力です。」と語ります。

篠宮さんの住居でもある学園町の「ミニばら盆栽学園」では、ビニールハウスで15種類ほどのマイクロミニばらを栽培中です。盆栽の土を覆う苔も育てています。「苔や石があつて、そこに小さな花がぽつんと咲く。日本庭園をほうふつとさせてくれます」と盆栽へのこだわりを語ってくれました。ここで育てたミニばら盆栽をひばりヶ丘店で販売しているというわけです。

ひばりヶ丘店では、ハッピーパラソル「溶岩鉢」(税込3500円)、シンデレラ「築山」(3200円)、リトルタイニー「苔玉」(2800円)など多くのミニばら盆栽を即売しています。また、オンラインショップでの販売も行っているのホームページをご覧ください。以下のURLです。
<https://minibarbonsai.com/>

一方、カフェのメニューはロゼティ、コーヒー、紅茶、オレジンジュース、コカ・コーラ、ジンジャーエールといったドリンクのほか、そばがきしるこ、クリームあんみつ、アイスクリーム、それに各種の焼きだんごを用意しています。だんごはテイクアウトもしており、10本以上の場合は事前予

約が必要です。

- ミニばら盆栽学園 学園町1-7-8 TEL: 080 (3362) 1014
- ひばりヶ丘店 西東京市ひばりヶ丘1-8-26 TEL: 042 (423) 5677
- 10時30分~17時30分 月曜日定休

敬老の日 お赤飯を配りました

敬老の日の9月19日(月)、学園町自治会恒例のお赤飯配りを実施しました。今年70歳を迎えた人と77歳以上の人が対象で、70歳を迎えた人は12人(昨年比2人増)、77歳以上は215人(昨年比11人減)の合計227人(昨年比9人減)でした。

昨年は、迷走台風が過ぎ去った台風一過のからりと晴れ上がった天気でしたが、今年は大変非常に強い台風14号の列島縦断と重なるあいにくの天候でした。午前10時の開始時刻ごろから風雨が強くなりましたが、各組の組長さんが会場の自由学園しのめ茶寮まで取りに来てくれました。



会員に配っていただく災害時安否確認カード(ダグ)も手渡されました。

東海道五十三次完歩しました その⑩

2丁目 藤田義子

この東海道歩きを始めた2014年の一回目から予約は阪急に電話で簡単に済ませていたが十八回ではなかなか電話が通じず、通じた時にはもう定員越えて締め切られていた。

残念ながら全長850mの大井川橋をこの足で渡ることはできず島田宿―金谷宿―日坂宿―掛川宿の18kmは抜けてしまった。これに懲りて以後パソコンで予約した。

●第19回 6月1日、2日185km (4850歩)

掛川宿―袋井宿―見附宿

この回は実に印象が薄い。プリントを見れば「平将門十九首塚」とか「ど真ん中茶屋」とか変わった場所が幾つもあるのに歩き出すとすぐにウオーキングリーダーは手元の資料の朗読を始め、周囲の景色も参加者の状態にも目もくれず唯々資料を朗読し続けるだけだった。そんな中でもしっかり印象に残っているのは休憩の自由時間に見た1875年に落成、開校した「国史跡・旧見附学校磐田文庫」だ。1.5mはあるかと思われる石垣の上に木造の3階建の洋風建物があり、屋上には2層の塔まで乗っている。手元のプリントには四階建て明治16年に5階建てとなったとあるが私はそう見えなかった。

以外のイベント♪
★なんぶまなぶシリーズ
「ヨガ教室関係①～⑤」

建物の内部に入ると明治期の授業風景が再現されていて黒板の前に等身大の袴姿の先生が立ち、紺の筒袖姿の子供が立って何かを読んでいる。髪を三つ編みに、紺の着物に赤い兵児帯の女の子もいる。もう一つは歩きながら見た途中の小学校の校門に「真ん中小学校」とあった事。見附は京と江戸の真ん中とか。なお「見附」と言う名は京から下ってきて富士山を初めて「見つける」かららしい。

南部地域センターからの お知らせ

♪みんなの交流祭♪

10月21日(金)～10月23日(日) 南部地域センターで日頃活動されている皆様の成果発表・交流の場として、みんなの交流祭を開催します。

【10月21日(金)】

※リトミックくらぶ※社交ダンス

【10月22日(土)】

※お茶席※フリーマーケット※ステージ発表※キッズシアター(水曜お話し会&図書館)

【10月22日(土)～23日(日)】

※展示1階ロビー

【10月23日(日)】

※いきいき芸能発表会
♪みんなの交流祭

い方。マタニティライフをナチュラルなケアで過ごしたい方
★「バクさんとその仲間と音楽と」
10月30日(日)・11月27日(日)
開場13:00 13:15～15:00

★定員40名・参加費5000円
★60歳からの音楽で脳トレ体操
10月31日(月)・11月28日(月)
10:15～11:30 講習室1
★定員10名・参加費10000円(当日払)

★なんぶおしゃべりサロン
11月6日(日)・12月4日(日)13:30～15:30 音楽室
★参加費1000円(当日払)★定員10名
★対象者:地域にお住いの高齢者
※各イベント問合せ
南部地域センター

(指定管理者株式会社セイウン)
042-451-2021
Mail: Higashikurume_nanbu@s-seiun.co.jp

自由学園からの お知らせ
■幼児生活団幼稚園入園願書配布
詳細は、自由学園ホームページをご覧ください。

■幼児生活団幼稚園 体験会
10月15日(土) 9:30～(15組)
■男子部学校説明会・受験勉強会
10月22日(土) 14:30～
男子部中等科・高等科入学希望の方への説明会を行います。

■女子部入試対策勉強会・入試相談会
10月22日(土)
女子部中等科・高等科入学希望の方への説明会を行います。
■男子部・女子部
入試対策勉強会・入試相談会
11月12日(土) 14:45～
■11月3日(木・祝)
自由学園女子部東京有形文化財指定記念見学会
1日に3回各30名定員で建築物を中心とした見学会を開催します。
■11月26日(土) 14時～16時
『自由学園100年史』を題材に、これからの教育について考える無料公開シンポジウムを開催します。「学校をつくるってなんだろう?」～つくる・続ける・活かす

登壇者:永田佳之(聖心女子大 学現代教養学部教育学科教授)、草本朋子(一般社団法人白馬インターナショナルスクール代表理事)、高橋和也(自由学園学園長) コーディネーター:坂本建一郎(時事通信出版局出版事業部長)
※上記催しについて、詳細は自由学園のホームページに掲載しております。お申込みもホームページからお願いいたします。

※お問合せ先:自由学園広報本部
TEL: 042-428-2122
e-mail: kh@jiyu.ac.jp
URL: https://www.jiyu.ac.jp